

複式社会科授業の研究
－「学年別指導案」による二つの授業実践例－
伊藤正

A Study of Social Studies Teaching in Combined Class
ITO Tadashi

はじめに

複式授業の形態は「学年別指導案」と「同単元指導案」とに大別されるが、前者は一つの学級で異なる学年の異なる内容の授業を同時並行に行なう形態である。今回、筆者はこの形態で行なわれた三大学連携に伴う複式授業および授業研究会に参加する機会に恵まれた。本稿では東城小および宇宿小で行なわれた二つの授業実践に関する報告とこの形態における複式授業指導法の問題点とその対応ならび展望について考察する。

1. 報告－二つの実践事例

東城小学校、児玉千賀子教諭の授業（資料1参照：平成19年11月19日実施）と宇宿小学校、二宮進一教諭の授業（資料2参照：平成19年12月7日実施）について紹介し、次に双方の指導法の特徴について比較・検証してみよう。

まず、授業内容の紹介。

前者：

小単元名「工業製品と貿易」（5年 全5時間）

「工業製品のふるさと調べ」（2/5）本時の目的

身の回りの工業製品を調べ、いかに多くの工業製品の原料が外国から輸入されているかを理解させる。

小単元名「新しい日本、平和な日本へ」（6年 全5時間）

「戦後の改革と日本国憲法」（2/5）本時の目的

戦後の新しい改革や日本国憲法について、教科書や資料集を用いて調べさせ、戦後わが国が民主的・平和的な国家として出発したことを理解させる。

後者：

小単元名「情報と社会」（5年 全7時間）

（4/7）本時の目的

わたしたちの生活と情報のかかわりに関心を持ち、調べ学習をとおして、新聞社の人々の工夫や努力を理解し、情報の受け手として気をつけなければならないことについて考えさせる。

小単元名「私たちの願いを実現する政治」（6年 全8時間）

（3/8）本時の目的

町役場や市議会の働きや、宇宿小学校の建設にかかわった人々の願いや思いについて調べ、自分たちの生活と政治の働きについて理解させる。

では、次に指導法の特徴について。

前者は授業の流れを「ずらしの技法」に基づいて設定し、ほぼそれに沿って授業を展開するというオーソドックスな手法と言える。5年生の授業ではその導入部においてデジタルカメラなど幾つかの製品を教室後方の長机に並べ、それらがどこ製であるかを調べさせるという仕掛けが用いられていた。これはこの単元の動機付けとしては適切であり、児童・生徒に好奇心を抱かせ、やる気を起こさせる結果となった。また、支援を必要とする児童・生徒への配慮が見られた。例えば、「渡る」前に声をかけるなど。

後者も、前者同様に、授業の流れを「ずらしの技法」に基づいて設定し、ほぼそれに沿って授業を展開するという手法が取られたが、前者と異なる点は、同時間接指導の時間帯を設けた点にある。同時間接指導の時間帯を設けることの重要性については後述する。指導法における際だった特徴はゲストティーチャー（GT）を用いたことにある。今回の授業では各学年にそれぞれ2名と1名計3名のGTが招かれていたが、人数を何人にするかあるいは授業の中で誰をどのように使うかなど熟慮の必要がある。重要なのは授業の中でのGTの役割を明確にすることである。社会と地域との結びつきという観点から言えば、社会科の学習は地域に豊富な素材を有している。また、地域の人材をGTとして活用することは社会科の学習にとっても有益であろう。しかし、その有効活用にあたっては教師とGTとの間で綿密な打合せが必要となろう。

2. 複式授業指導法の問題点とその対応

「ずらしの技法」に基づいて、二つの学年の授業の流れを表で示すと次のようになる。

表1（網掛け部分は主に直接指導）

5年	学習課題の設定	学習課題解決	学習のまとめ	応用・発展
6年	前時の応用・発展	学習課題の設定	学習課題解決	学習のまとめ

表2（網掛け部分は主に直接指導）

5年	学習課題の設定	学習課題解決	学習のまとめ	応用・発展
6年	前時の応用・発展	学習課題の設定	学習課題解決	学習のまとめ

表3（網掛け部分は主に直接指導）

学習課題に関連した「短い発問」	学習課題の設定	学習課題解決	学習のまとめ
-----------------	---------	--------	--------

表1のケースは同時間接授業の時間帯が設けられていない場合であり、表2にはそれが設けられている場合である。表3は授業導入部が間接指導になる学年に対して、「前時の応用・発展」ではなく、学習課題に関連した「短い発問」を設定する場合を示している。

複式授業の特徴の一つに「渡り」の技法がある。これは直接指導していた学年から間接指導していた学年へ教師が移動することを「渡り」と呼んでいる。問題は教師がうまく「渡り」を行なうにはどのような点に留意しなければならないかであろう。最も大切な点は、「渡る」前の指示が適切・明確でなければならないということである。つまり、間接指導の児童・生徒が主体的かつスムーズに学習を行なうことができるようにするためには、渡る前の「指示」が適切でなかったり、不明確であったりしてはならないのである。したがって、教師は適切な指示の仕方あるいは適切な課題の出し方など十分に工夫を凝らす必要がある。

次に、複式授業の特徴として、「ガイド学習」を挙げることができる。間接指導の時に、児童・生徒がガイド役となって先生から指示された内容を進行するのである。ガイドはときにはプリントを配布したり、ときには「学習のまとめ」で用いる短冊や小板を準備したり、「答え」が書かれた短冊を黒板に貼りつけるなどして、授業が円滑に進むように教師をアシストするのである。ガイド学習の留意点としてガイドの役割を明確にしておくことが重要である。ガイド役の児童・生徒は何を行ない何をしないか。ガイド役を補助教員（リトルティーチャー）にしてはならない、と言われることがある。教師が理解の早い児童だけにガイド役をさせたり、教師の意思の通じやすい児童だけにガイド役をたのんだり、ガイド役に偏りがあってはならない。「ガイド学習」はクラスのリーダーだけが行なうものでもない。ガイド役をすべての児童・生徒に経験させるためには、ガイドの仕事や役割に高いハードルを設けてはいけないのである。「ガイド学習」の原則は「誰がガイド役を務めてもよい」ということにある。その結果、全児童・生徒がガイド役を経験する機会が均等に与えられるのである。例えば、それを輪番制で行なうことも可能であろう。

では、誰もがガイド役を務めることができるとすれば、自ずとその仕事や役割は簡単かつ限定されたものにならざるを得ない。誰でもできるということが前提となるからである。したがって、教師はそのことを考慮してガイドの仕事や役割を簡潔にマニュアル化し、ガイド役は教師が作った「手引き」にしたがって授業の円滑化を図ることが求められる。このような仕事に携わる児童・生徒はガイド役というよりもむしろアシスタントと呼ばれるに相応しい。アシスタントはあくまでも「助手」であり、決してティーチング・アシスタントであってはならない。

最後に、「間接指導」における学習の進め方について考えてみよう。「間接指導」の時間帯はいわば「自習」の時間帯である。では、その時間帯に「主体的な学習」を行なわせるにはどのような工夫が必要か。大切な点は「直接指導」時に、換言すれば、「間接指導」に入る前に、① 明確な課題設定をすること、② 課題の設定だけに留まらず、課題解決の手立て（ヒント）を与えておくこと、③ 考えたことをノート（あるいは短冊や小板）に書くなどの指示を与えることである。「直接指導」は「学習課題の設定」と「学習のまとめ」から成る、いわば「全体指導」であり、「間接指導」は学習課題に対して各々の児童・生徒が解答を引き出すために行なわれる「個別指導」に他ならない。

では、「間接指導」時に、質の高い「主体的な学習」を児童・生徒に行なわせるにはどの

ような仕掛けが必要か。

3. 展望—ディアレクティケー（問答法）

古代ギリシア語のディアレクティケーとは英語の dialogue にあたり、「対話」という意味であるが、プラトン哲学では一般的に「問答法」と呼ばれている。この方法は少人数制に基づく複式授業指導法にも有効な手段となるのではないか。「学習課題の設定」時における問いかけ（発問）、授業導入部が間接指導になる学年に、「前時の応用・発展」ではなく、学習課題に関連した「短い発問」をおくこと、次に「学習課題解決」時における児童・生徒による答え（解決）の提示がそれである。

この方法が功を奏するためには、「学習課題解決」時に双方の学年が同時間接指導の時間帯をもつことが大切である。このとき教師は頻繁に「渡り」をして問答形式の「個別指導」を行なうのである。さらに、必要な場合には、時間帯設定にとらわれない、自由な「渡り」ができるように心掛けることが大切である。そのためには、「直接指導」中であれ、もう一方の「間接指導」中の児童・生徒にも目を配ることが肝要である。

この方法で大切な点は、発問が適切であることに加えて、発問の質を高め、問いかけを工夫することにある。プラトンは「驚異^{タウマゼイン}の心こそ知を愛し求める者の心」である（『テアイテトス』155D）、と述べている。つまり、「学習課題の設定」に際して、「驚異求知」の心を児童・生徒に植え付けること、言換すれば、「知りたい」「調べてみたい」「学びたい」という気持ちを児童・生徒に抱かせることが重要で、そのためには、「発問」の中にタウマゼインの要素を取り入れる必要がある。そうすれば、児童・生徒の学習意欲、すなわち「課題解決」意欲は自ずと高まるであろう。

この方法は、少人数による複式学級のもとで、児童・生徒の「主体的学習」に大いに貢献するものと思われる。

おわりに

「学年別指導案」に基づく複式社会科授業指導法なるものはいまだ確立されていないと言える。また、複式社会科授業指導法なるものが確立して複式授業が行なわれるようになった訳でもない。つまり、「初めに指導法在りき」ではないのである。もし複式社会科授業指導法なるものが成立するとすれば、それは優れた教師が実際に行なった指導法を、統一的組織的に研究して構築されてゆくものであろう。したがって、教師は試行錯誤しながら自己の指導法に基づく授業実践を積み重ねてゆくより他なく、このような実践の積み重ねが延いては理想的な複式社会科授業指導法の構築に繋がってゆくものと思われる。

参考文献

八田明夫「習熟度別指導に役立つ複式授業指導法の研究」『鹿児島大学教育学部紀要』58巻（2007）、195－205頁。

資料 1

第5・6学年 社会科学習指導略案

平成19年11月19日(金)

第5学年 男子5名 女子2名 計7名

第6学年 男子2名 女子3名 計5名

指導者 教諭 児玉 千賀子

1 小単元名 工業生産と貿易 (5年) | 新しい日本、平和な日本へ (6年)

2 単元について

子どもたちは、これまでに、日本の米作りや水産業を中心とした食料生産についての学習をしてきた。

食料生産の学習では、それに携わる人々の工夫や努力、また、食料生産に直面する厳しい問題点や取り組まれている新しい試みについて学習してきている。

また、前単元までにおいては、自動車工業を中心に工業生産に携わる人々の工夫や努力、製品や原材料の運輸の特徴、これからの工業生産の課題についても学習してきた。

そこで、本単元では日本の貿易について、主な貿易相手国や、原料輸入、製品輸出という特色を理解させるとともに、貿易摩擦などの問題点について考えさせるようにする。

子どもたちは、これまでに、明治維新後の日本が国力を充実させ、国際的地位を向上させたこと、さらに第二次世界大戦に参戦したことから国民総動員して戦時体制に移行し、敗戦によって国民が大きな被害を受けてきたということを学習している。

そこで本単元では、日本国憲法の制定と人々の努力により、我が国が復興し、民主的平和的な国家に生まれ変わったと同時に、東京オリンピックを通して、国際社会においても重要な役割を担うようになり、あらゆる場で世界の人々との共存を願った活動を行ったりしていることを理解することが必要である。

3 単元の目標

- (1) 原材料の確保など工業生産を支えている貿易の働きについて理解し、これからの日本は、世界の国々と貿易を通じて助け合っていくことが大切であることを考えるようにする。
- (2) 貿易の働きや世界とのかかわりについて、グラフや資料を活用して調べ、自分が考えたことをまとめることができる。

- (1) 日本国憲法の制定やオリンピックの開催などに関心をもち、第二次世界大戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民生活が向上して国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが理解できるようにするとともに、平和を願う日本人として、世界の国々の人々と共に生きていこうとする心情を育てる。
- (2) 映像や写真、文章などの資料を効果的に活用したりして、戦後民主的で平和主義的な憲法が制定されたことや、オリンピックが開催されたことなどを調べ、調べたことを目的に応じた方法でまとめることができるようにするとともに、戦後の復興と発展を支えた国民の努力や国際社会における日本の役割について考える力を育てる。

4 単元の評価規準

	5 年	6 年
関心・意欲・態度	工業生産を支える貿易の働きや日本と海外の関係についてすすんで調べようとする。	日本国憲法の制定やオリンピックの開催などに関心をもち、聞き取り、調査をしたり、資料収集をしたりして、進んで調べようとする。
思考・判断	工業生産における貿易の役割や貿易を通して日本と世界とのつながりについて考えることができる。	国民の努力によって我が国が復興・発展したことや、オリンピックの開催などに関心をもち、聞き取り、調査をしたり、資料収集をしたりして、進んで調べようとする。

	がりについて考えることができる。	クを契機に我が国が国際社会の中で重要な役割を果たすようになったことを考えることができる。
技能・表現	我が国の貿易の特色や外国との関係について、グラフや資料を読み取ったり、表現したりすることができる。	身近な人から聞き取り調査をしたり、映像や写真、文章などの資料を効果的に活用したりして、戦後の我が国の復興と発展の様子について調べ、調べたことを目的に応じた方法でノートにまとめることができる。
知識・理解	工業生産を支える貿易の働きや外国と互いに助け合って貿易をしていく必要があることを理解することができる。	戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民生活が向上したことや、我が国が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解することができる。

5 児童の実態

10月26日アンケート実施 12名回答

5年 (7名)	6年 (5名)
1 社会の学習が好きか嫌いか 好き 1名 嫌い 6名	1 社会の学習が好きか嫌いか 好き 4名 嫌い 1名
2 社会が好きな理由 ・いろいろな勉強ができる	2 社会が好きな理由 ・歴史が好き(3名) ・歴史を覚えるのが楽しい(1名)
3 社会が嫌いな理由 ・覚えることが多い(2名) ・難しい(2名) ・無回答(2名)	3 社会が嫌いな理由 ・覚えるのが面倒くさい
4 社会の学習で好きな単元 ・自動車工業(3名) ・水産業(2名) ・ない(1名) ・無回答(1名)	4 社会科学習で好きな単元 ・江戸時代 ・安土桃山時代(2名) ・明治時代(2名)
5 ニュースをよく見るか はい 6名 いいえ 1名	5 ニュースをよく見るか はい 5名 いいえ 1名
6 ニュースを見る理由 ・いろんなことが分かる(3名) ・いろんなことを知りたい ・朝起きたらやっている ・天気予報が分かる ・無回答	6 ニュースを見る理由 ・家で家族が見ているから(3名) ・ひまだから ・なんとなく

5年生のほとんどが、社会科の学習が苦手である。

暗記教科である気持ちが強いこと、それぞれの仕事をしている人たちの工夫や努力、願いなどを考えるのを不得意にしていることが原因にあると思われる。

日頃の学習活動を見ても、他の教科に比べ、自発的な調べ学習や発表ができる子どもが少ない。

ニュースを見ている子どもはほぼ全員であるが、学習内容に関するものではなく、事件や事故等の話題が多いようである。

少しでも社会科学習への苦手意識をなくするために、1単位時間での学習で使う資料から分かることをグループで考えさせ、自分が考えたことに自信をつけさせることが必要であると考えられる。

6年生の半分以上が社会科の学習が好きである。

6年生の学習は、日本を中心とした歴史学習である。時代の流れを授業だけでなく、休み時間にも学んでもらおうと、学級に「漫画で見る日本の歴史」全巻を置いてあるが、興味を持って読んでいる子どもはほとんどいない。

しかし、調べ学習や発表には大変積極的で、大事な年号もいろいろと見つけて覚えようとする姿が見られる。

日頃の学習では、現在とそれぞれの時代の背景で違う点に興味をもち、学習を進めている。

教科書にある資料にもよく目を通し、いろいろな気づきを見つけることが得意のようである。

また、自動車工業では、インターネットを活用して自動車のできるまでを学習し、子どもたちも興味を持って見ていた。このことから、視聴覚教材も工夫して用いることにより、学習内容の定着と、苦手意識の克服につながると考える。

本単元でも、既習事項と比べさせることにより戦後の社会の変化を調べ学習で読み取っていただけるものと考ええる。

6 指導にあたって

単元全体を通して、一人調べではなく二人組での調べ学習をすすめさせるようにする。そうすることにより、調べ方が苦手な子どもも話し合いながら学習を進めることができる。グループ学習は、理科や算数の学習でも用いており、子どもたちも慣れている。

また、資料活用能力をつけるために教科書や資料集、地図帳なども積極的に活用していく。

また、本単元では、日本の貿易の特色について学習するので、各種グラフから読み取れる変化とその理由をしっかりと考えさせたい。

明治新政府が行った改革と大日本帝国憲法を想起させ、戦後の改革と日本国憲法の特色を調べさせるようにする。

比較していくことにより、戦後の改革が民主化と世界平和を中心に進められていることを理解させるようにしたい。

7 指導計画（5年 全5時間 6年 全5時間）

5 年		6 年	
小単元 日本の貿易港成田	<p>主な学習活動および評価規準</p> <p>1 成田空港は、旅客の窓口の他に、物流の拠点であることを知る。 【評】 日本と貿易がさかんな国など、進んで調べようとしている。（関・意・態）</p>	時間	小単元 東京オリンピック
工業製品のふるさと調べ	<p>2 外国とかかわりのある身の回りの工業製品について調べ、いかに多くの工業製品の原料が外国から輸入されているか理解する。 【評】 実物の工業製品や教科書などの資料から必要なことを読み取り、調べ活動ができる。（技・表） ・日本の工業製品が貿易を通じて成り立っていることが分かる。（知・理） （本時）</p>	2	戦後の改革と日本国憲法
世界の中の日本	<p>3 日本の工業製品や工業技術が外国で役立っていること、世界の情勢の中で日本の輸出品も変わってきていることを調べる。 【評】 我が国の貿易の特色や外国との関係について、グラフや資料から読み取ることができる。（技・表）</p>	3	人々の努力でふたたび
			<p>主な学習活動および評価規準</p> <p>1 同じ場所を撮影した2枚の写真から、戦後の日本社会の変化に関心を持ち、本小単元の学習問題をつくる。 【評】 戦後の我が国の復興と発展に関心を持ち、学習問題を意欲的に追究しようとする。（関・意・態）</p> <p>2 日本国憲法の公布をはじめとする戦後の新しい改革について調べる。 【評】 戦後、日本国憲法の制定をはじめとする諸改革が行われ、我が国が民主的な国家として出発したことが分かる。（知・理） （本時）</p> <p>3 独立の回復や国連への加盟、産業の発展、国民生活の向上などについて調べ、戦後日本の発展の様子をとらえる。 【評】 各種資料を効果的に活用し、戦後の我が国の復興と発展の様子について調べることができる。（技・表）</p>

<p>ゆたかさを交かんする</p>	<p>4 日本の主な貿易相手国の課題や、今、日本が抱えている貿易問題について調べ、これからの外国との結びつきについて考える。 【評】 貿易をよりさかんにするためには、外国との関係にさまざまな課題があることを考えることができる。 (思・判)</p>	<p>4 東京オリンピックとその</p>	<p>4 身近な人に聞き取り調査を行い、当時の人々が東京オリンピックをどのような気持ちで迎えたかをとらえる。 【評】 国民の努力によって我が国が復興・発展したことや、オリンピックを契機に我が国が国際社会の中で重要な役割を果たすようになったことを考えることができる。 (思・判)</p>
<p>とびだせ</p>	<p>5 水素を使って走る燃料電池車について調べる。 【評】 環境に優しい燃料電池車が今後もっと普及していくための方法を考えることができる。 (思・判)</p>	<p>5 これからの日本</p>	<p>5 これまでの歴史学習を振り返り、これからの日本がめざすべき方向や解決すべき課題について話し合い、自分の考えをまとめる。 【評】 平和を願う日本人として、世界の国々の人々と共に生きていくことについて考えることができる。 (思・判)</p>

8 本時の実際

(1) 本時の目標

(2/5)

身の回りの工業製品を調べ、工業製品の原料の多くが外国から輸入されていることを理解することができる。

(2/5)

戦後の新しい改革や日本国憲法について、教科書や資料集を活用して調べ、我が国が民主的・平和的な国家として新しく出発したことが分かる。

(2) 本時の展開

主な学習活動 (第5学年)	教師の位置	主な学習活動 (第6学年)
1 本時の学習問題と学習方法を確認する。	(分)	1 前時の学習を振り返るため、前時の学習内容本文を読む。
外国のかかわりのある工業製品には、どのようなものがあるでしょうか。	8	2 前時の学習内容のたしかめをする。
2 工業製品がどこの国でつくられているか、どのような原料が使われているか調べる。		3 本時の学習問題と学習方法を確認する。
(1) 工業製品がどこの国でつくられているか。	10	戦後の日本では、どのような改革が行われたのでしょうか。
(2) 工業製品の原料は何か調べる。		2 本文を読み、戦後の新しい改革と日本国憲法について調べる。
(3) どの原料をどこの国から多く輸入しているか調べる。		(1) 戦後に行われた新しい改革を調べる。
3 調べたことを発表する。	7	(2) 日本国憲法の公布と施行、三つの柱を調べる。
4 原料を輸入にたよっている理由について考える。		3 調べたことを発表する。
5 工業製品や原料が輸入されなかったら、自分たちの生活がどうなるか考える。	7	4 なぜ、新しい改革が行われ、新しい憲法が作られたのかを考える。
6 考えたことを発表する。	5	5 考えたことを発表する。
7 本時の学習のまとめをする。	6	6 本時の学習のまとめをする。
8 次時の学習を確認する。		7 次時の学習を確認する。
日本の輸出品について調べる。	2	日本が世界の仲間にもどるまでの努力と発展について調べる。

(3) 評価

身の回りの工業製品を調べ、工業製品の原料の多くが外国から輸入されていることを理解することができたか。

戦後の新しい改革や日本国憲法について、教科書や資料集を活用して調べ、我が国が民主的・平和的な国家として新しく出発したことが分かったか。

5年 6年	導 指	男子 男子	5人 2人	女子 女子	3人 2人	計 計	8人 4人

2. 単元について
(1) 単元の位置とねらい

[illegible]

(第6学年)

動の全かう自民す政える
活保しよにつ
生の生ののるに
究する土のどこ
追々国土がとこ
いてのさがう
城切て、我とい
地大し習とく
子あとととい
の様色にてて
の特るいたして
どた守つをを
見ならきを
自然然境を働
の等環境をな
目録働働を
仕生源源のよ
國も康活のない
で候廉利活とい
まや健康を生て
れ形の治つは
地民々々政治
のらの人た元公的議とは一
士か境に小地向具奉の間學字書
ち害濶環いで本と選べになる
もて公のの本に定に選き出す
どしや資國能けご生活安んま働より究
子を通予水機向そ民生活の動力の追
を疎やしをを国民生る治る政

[illegible]

エ ちねにをくらゐる。基よるに、氣人な様
 様の、日よるに、深く考へて、常々メ
 デアの中を、分る、解る、活る、生る、
 特色の、上、に、考へ、る、や、う、に、
 色、を、身、に、着、け、る、や、う、に、
 氣、に、近、い、や、う、に、考へ、る、や、う、
 付、け、る、や、う、に、考へ、る、や、う、に、
 たい、に、ま、つ、て、考へ、る、や、う、に、
 と、こ、に、ま、つ、て、考へ、る、や、う、に、
 と、こ、に、ま、つ、て、考へ、る、や、う、に、
 ま、ま、に、ま、ま、に、ま、ま、に、ま、ま、に、
 通、達、点、を、受、け、つ、め、に、
 そ、の、取、手、を、手、に、取、つ、て、
 中、に、上、げ、ら、う、に、考へ、る、や、う、
 子、も、現、場、に、い、ら、う、に、考へ、る、や、う、
 子、も、現、場、に、い、ら、う、に、考へ、る、や、う、
 た、も、現、場、に、い、ら、う、に、考へ、る、や、う、
 だ、も、現、場、に、い、ら、う、に、考へ、る、や、う、

オ
地方公共団体の建設にかつては、政治の向上を期して、政治的・経済的・社会的に、
字宿小学校の組織を整へ、その内閣の政策を執行し、その結果として、
にたや裁判所が、我々が一度も返らなかつたことを追ひ求め、
返らなかつたことを追ひ求め、

キ

- (1) 地方公共団体の政治の働きの様子を国民の目的のためによりよい政治の在り方について進んで調べることをできる
(社会事象についての関心・意欲・態度)
- (2) くらしの中に見られる政治の働きと国民生活の安定や向上を関連付けながら考えることができる。
(資料を基にした思考・判断)
- (3) 自分の調べたことを明確にし、身近な地域の開発と政治の働きや、地方公共団体の政治の働きについて分かったことを図表に表したり、政治新聞にまとめたりすることができる。
(資料活用などの技能・表現)
- (4) 国民の願いを実現するために、地方公共団体の政治が重要な働きをしていることを理解すること。
(社会事象についての知識・理解)

 $(3/8)$

町役場や市議会の働きを通して、自分たちの生活と政治の働きについて関心をもつことができる。

[illegible]

三田 康

- [illegible]

4. 本 時 (4/7)

- (1) 目 的
わたしたちの生活と情報のかかわりに関心をもち、調査活動を通して、新聞社の人々の工夫や努力を理解し、情報を受け手として気をつける。はならないことについて考える。

(2) 指導に当たって

[illegible][illegible]

[illegible]